

平成 29年度 栃木県公立小中学校 事務研究大会



平成29年12月1日（金）栃木県公立小中学校事務研究大会を栃木県教育会館大ホールにて開催いたしました。

本研究大会は、大会テーマ「実現しよう！子どもの学びの充実を目指す学校事務を」、サブテーマ「～学びづくりは未来づくり、描こう！私たちの向かうべき道を～」のもと、とちぎ学校事務ビジョンの成果と課題を踏まえ、1年間の活動のまとめ、そしてこれからのとちぎの学校事務、事務職員の進むべき道を探ることを目的としました。

開会式には栃木県教育委員会様をはじめ、多くのご来賓の皆様にご臨席を賜りました。

オリエンテーションでは吉田副会長より、「事務職員を取り巻く環境は大きく変化をしているが、29年4月の事務職員の職務規定の法改正や共同実施組織の法律上の明確化を追い風として、活動の成果と課題を整理し、とちぎの目指す学校事務の実現に向け、行動（展開）をして行こう。」と本大会のねらいについて説明がありました。



全体研究会は、文部科学省初等中等教育局参事官 木村直人 氏の基調講演から始まりました。「これからの学校は、地域・保護者と一体となり、子どもが新しい時代を生き抜くために必要となる資質・能力を身に付けさせなければなりません。未来に子どもたちが夢をもてる魅力のあるまちづくりをしていきましょう。」とお話しいただきました。「それには、事務職員が教育委員会、保護者・地域と渉外・交渉・連携をして情報管理・マネジメントを行い、事務職員の強みを生かしてカリキュラムをコーディネートしていくことが必要

だ。」と熱く語られました。

基調講演後は、ワークショップ（バックキャスト）が行われました。席が近い者同士で7～8人のグループを作り、まず目標の「こんな事務職員になりたい」を出し合い、「理想に対して何が足りないか」、それに対し「明日から何をするの？」を考え、明日から確実に一步踏み出す事柄をそれぞれが明確にすることができました。自分のやるべきことを胸に、熱い雰囲気の中、ワークショップを終了しました。



ワークショップ後はシンポジウムが行われました。シンポジストに栃木県義務教育振興協議会長 長谷川 武士 氏、宇都宮市立昭和小学校長 浪花 寛 氏、栃事研会長 廣田 則子に登壇いただき、栃事研研究部長 相澤 恵美子がコーディネーターを務め、廣田会長から問題提起された「学校経営参画を果たしていくこと」「共同実施の質の向上」「そのための事務職員の支援の在り方と地域との関係性」について議論を進めました。長谷川先生からは、「学校はPTA・保護者、地域、教職員が連携し、目指す姿や多くの情報を共有することで使命感が生まれ、困難があっても乗り越えられる。」浪花先生からは、

「高い理念をもち、共有することで質の高い教育が実現できる。」と宇都宮市の地域学校園の立ち上げにご尽力いただいたご経験からお話をいただきました。廣田会長からは、「忙しくて、大変だから・・・を理由にせず子どもに関わる当事者として前のめりになって一緒に進んで行こう。」とありました。最後に相澤コーディネーターが、「私たち世代が先輩の皆様への熱い思いを実現するため、力量形成を図り、理念達成のために頑張っていきたい。」と締めくくりました。



午後の部は、「教育功労者」並びに「とちぎ教育賞」を受賞された4名の方の表彰式が行われました。続いて、平成32年度第52回関東地区学校事務研究大会（栃木大会）実行委員会発足式では、実行委員長 渡邊 哲夫より、関東一円の仲間と現状・課題を共有し、多くを「語り合える（熟議できる）」大会にしたいと趣旨説明がありました。

「とちぎ学校事務ビジョン」と「チャレンジプラン」の成果と課題については、とちぎ学校事務ビジョン推進チーム 佐瀬 葉子サブリーダーが報告いたしました。「とちぎ学校事務ビジョン5年間の活動の成果と課題を整理し、しっかりと検証していくことで、次期ビジョンへとつなげていく。その課題こそ今後の目指す方向性につながる。また、経営参画は、実践の拡がりの段階に入った。それには標準職務表の改正や共同実施組織の機能化・深化、研修講師・リーダーの育成のための研修の充実など、課題解決に向けた方策の検討が必要である。」との報告がありました。

50周年記念全国公立小中学校学校事務研究大会（千葉大会）PRでは、千葉大会実行委員会実行委員長 松本 良子 氏より平成30年8月1日～3日の実施に向け、映像を交えたPRがありました。



地区発表では、安足地区足利支部より「チーム足利 学校財務運営への道」～できたがね！学校財務委員会！いきいきと学ぶ子どものために～をテーマに、足利市教育委員会や校長会・教頭会と連携・協働した各種検討委員会や、学校財務課題解決に向けた各校や学校間連携推進ブロックでの取組が発表されました。課題解決・目標達成のために、教職員や学校間連携推進

ブロックで協働し相互補完をすることで事務職員の力量形成や教育効果を高める学校財務運営となり、子どもの豊かな育ちの保障につながる、との提案でした。「わーくしーと」の活用により会場の皆様と共に考える場面もあり、今後の実践につなげられる発表でした。

最後に吉田副会長が、「子どもの学びの充実に向け“明日から取り組むこと”が自分の向かうべき道の第一歩として明確になりました。それは経営参画の実践を拡げる第一歩でもあります。環境の変化にしっかりと対応をしながら子どもの未来づくりのために、教職員・地域・保護者と連携をし、高い理念のもと、実践につなげてください。」と振り返りを行い、研究大会が終了いたしました。